

労働者作家

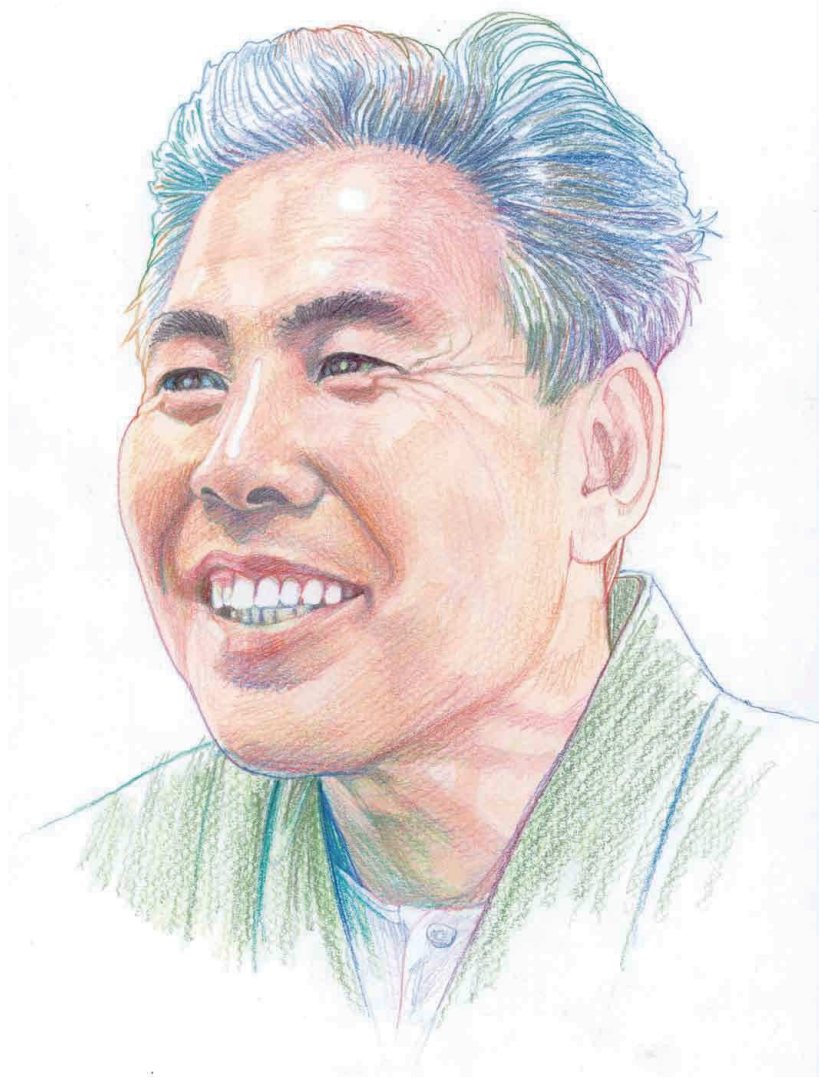
徳永

とく
なが

直

す
なお

Tokunaga Sunao



明治 32 年(1899)～昭和 33 年(1958)

熊本市生まれ

小説家

小学校中退で印刷工となり、以後、様々な職業を経て、23歳で上京。印刷所の組合運動の中心となって活動し、^{そうぎ}争議で失職。その体験を描いた『太陽のない街』で労働者出身のプロレタリア作家として川端康成に高^{かわばたやすなり}く評価される。時代の圧力の中で揺れ動き、自己のとるべき姿勢に苦慮した。戦後は、新日本文学会の創立に参加、労働者文学の育成と運動の推進にあたった。熊本を描いた作品に『最初の記憶』などがある。